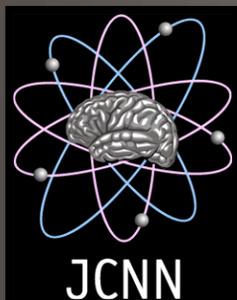


# 第18回

# 日本脳神経核医学研究会



日 時 : 2017年10月7日 (土) 13 : 30 - 15 : 45

会 場 : パシフィコ横浜 3F 第5会場 (311+312)

会 費 : 3000円

## テーマ : ミエリンマッピング - 髄鞘形成への画像からのアプローチ

### program

総 会 13 : 30 - 13 : 40 昼食を準備いたします。ただし、先着順です。  
なくなった場合はご容赦ください。

講演会 13 : 40 - 15 : 45

座長 : 松田 博史 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

#### 1. 「ミエリンバイオロジーの進歩」

馬場 広子 東京薬科大学 薬学部 機能形態学教室

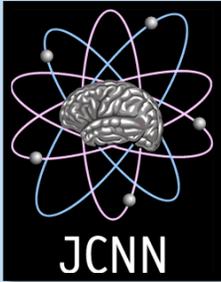
#### 2. 「ミエリンイメージングに向けた

#### PETトレーサー開発の試み」

加藤 孝一 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター  
脳病態統合イメージングセンター

#### 3. 「q-Space imagingを用いた新たな髄鞘の可視化法 “ミエリンマップ”の開発」

藤吉 兼浩 独立行政法人 国立病院機構村山医療センター  
整形外科 脊髄損傷治療研究室  
慶応義塾大学医学部整形外科



## 第18回 日本脳神経核医学研究会

### ミエリンマッピング – 髄鞘形成への画像からのアプローチ

髄鞘は神経軸索を包む絶縁体で、脊椎動物で発達し、高速な跳躍伝導を達成しました。髄鞘は中枢神経系ではオリゴデンドロサイト、末梢神経系ではシュワン細胞というグリア細胞により形成されます。脱髄や髄鞘形成は、軸索と髄鞘の間の相互作用により起こっていることが近年解明され、再生医療のみならず、脱髄疾患の根治治療薬開発への利用も進められています。

画像診断においても単なる結果としての脱髄の観察だけでなく、再髄鞘化や軸索と髄鞘の代謝の可視化が開発されはじめており、疾患の診断のみならず、病態解明や治療効果判定への画像の利用に期待が高まっています。

今回は、軸索と髄鞘形成の生理学的・生化学的メカニズムについて学び、PETおよびMRIにおけるミエリンイメージングの現状についてのお話をうかがい、臨床利用への方向性について考える機会を持ちたいと思います。

皆様ふるってご参加下さい。

日 時：2017年10月7日（土）13：30－15：45

会 場：パシフィコ横浜 第5会場（会議センター3階 311+312）

会 費：3000円

日本脳神経核医学研究会は、日本核医学会の分科会として平成12年11月3日に発足しました。21世紀は脳の時代であると言われていています。最近の脳科学の目覚ましい進歩によって、従来は未知の領域であった脳のはたらきを画像として描出することが可能になりつつあります。脳核医学は、このような脳科学の一端を担うとともに、脳のさまざまな疾患における病態を早期に検出し、各種の治療法の選択や治療経過のモニタリングに重要な役割を果たすことが期待されています。

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科など患者さんの診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

日本脳神経核医学研究会事務局